

ぐんまの消防

第41号

令和4年度発行

地域住民の安心・
安全のために



表紙写真 吾妻広域消防本部

〈主な記事〉

- p 2 団長の熱き思い(玉村町消防団 団長)
- p 4 群馬県緊急消防援助隊合同訓練
- p 5 【救急蘇生法の指針2020】に基づく市民が行う一次救命処置について(太田市消防本部)
- p 6 群馬県女性防火クラブ連絡協議会



消防団紹介



太田市消防団・大泉町消防団

群馬県消防協会太田支部は、太田市消防団、大泉町消防団及び太田市消防本部で構成されています。太田市消防団は、今年度、三つの題材を検討するプロジェクトチームを団本部が中心となつて結成し、太田市消防団が抱える課題に対して、意見交換や協議検討を行いました。

まず「加入促進チーム」。近年の消防団員減少に対して、団員増加に繋がる運動や活動は何か、各分団各部から意見を聞きまし。また、十代、二十代と若い世代の意見を取り入れることで、新入団員の入団に繋げることを考えました。

次に、「訓練強化チーム」。秋季点検の実施要領の検討や各分団部で行っている訓練の見える化をし



中継送水訓練

ました。それらの訓練を事例集にまとめ、水平展開することで、太田市消防団の知識、技術の底上げを図りました。

最後に、「組織検討チーム」。中長期的な視野で太田市消防団を改革するチーム。例えば、組織体系に関する事や詰所、車両等の配備に関する事など、地域における消防防災のリーダーとして、住民の安心安全を守るために、熟考しました。今後、新型コロナウイルス感染症により、活動の制限があると思いますが、出来る活動を実施して、消防力の向上に努めていきたいと思っています。

一方、大泉町消防団では、大規模な河川敷火災を想定し、河川敷内の対策位置図を作成したほか、新たに長距離の「中継送水訓練」を実施しました。実施にあたっては、若手消防団員が負担と感じないように配慮し、消防庁の「消防団の力向上モデル事業」として採択されることになりました。

その様子については、県消防保安課のご協力により、団のPR動画として撮影してもらい、大泉町消防団初の女性副分団長のインタビューなどを含めてYouTubeで公開されていますので、ぜひご覧ください。



片品村消防団

本村は、群馬県の東北部にあり、本州最大の高層湿原としてラムサール条約に登録されている『尾瀬国立公園』をはじめ、平成の名水百選『尾瀬の郷片品湧水群』、四季を通して楽しめる自然と五つのスキー場など多くの資源を有し、昼夜の寒暖差による質の高い農産物も多種収穫されています。

消防団については、八分団で構成されており、総員二七四名の団員が村の安心・安全を守るため活動を行っております。

消防団員の確保対策としては、令和二年度から各地域の消防団OBによる機能別消防団員(七〇名)を組織することにより定数を確保しております。

機能別消防団員の活動範囲については居住地域の災害等に限定することにより団員の負担軽減と初期消火等初動対応に効果があると期待しております。

また、本村は面積の約九割が森林という地理的特徴もあり、林野火災や山岳遭難捜索等に備え、平成二十九年度からドローン隊を組織しており、隊員十五名は年間を通じて訓練を行っています。

また、村では、年一回「滞在型ドローンスクール」として、専門

事業者と協力し、平常時・災害時における測量や空撮を行う際に必要な知識と、普段できない実践的な飛行訓練と操縦技術の向上を目的に開催しております。

このスクールと合わせ、消防団と利根沼田広域消防本部によるドローン隊合同訓練も毎年実施しております。

本年度は、NTT東日本群馬支店にも参加いただき、「空撮映像の共有訓練」を合同で実施いたしました。

これは、ドローンで撮影した映像をリアルタイムに遠隔地で共有することにより、村、消防、ライフレイン事業者等が必要な情報を共有し、速やかな災害復旧対応等を協力して実施することを目的と行いました。

そのほかにもドローンの有効的な活用方法については、まだまだ未知の部分が多く、今後も先進的な事例を参考にし取り入れていきたいと考えております。

「小さくても輝く尾瀬の郷・かたしな」の実現のため、片品村消防団では村民及び本村を訪れた方々の生命財産を守るため、訓練を重ねていきたいと考えております。

『令和四年度群馬県緊急消防援助隊合同訓練』

群馬県消防長会では、十月十九日(水)二十日(木)の二日に渡り、千代田町・赤岩渡船場付近(ほか)において「令和四年度群馬県緊急消防援助隊合同訓練」を実施しました。

本訓練は、他県において記録的な大雨による水害が発生し、緊急消防援助隊群馬県大隊が応援出動することを想定とし

たブライント型訓練で、情報伝達訓練、参集訓練、部隊運用訓練、燃料補給訓練及び宿営訓練と実践に即した訓練を行いました。県内各消防本部の群馬県大隊に指定されている隊及び群馬県防災航空隊の参加により、顔の見える関係を築くとともに、指揮統制や部隊活動について検証を行い、連携強化を図ることができ



活動状況

きたと感じております。

また、本訓練では女性隊員の参加を促し、女性隊員の更なる活躍に向けた意見交換会を実施、宿営を伴う派遣での課題を抽出することができました。

今回の合同訓練で得た課題については、今後の活動に反映させ、実災害に備えていきます。

『救急出動時におけるプレアライバルコールの取り組みについて』

～富岡甘楽広域消防本部～

プレアライバルコールとは、救急車が現場に到着する前に救急隊から傷病者やその関係者に電話で連絡し、現場に到着する前から情報収集を開始することです。

富岡甘楽広域消防本部では、迅速な傷病者の状態把握、救急隊の活動方針の決

定及び資器材の選定並びに傷病者本人

又はその関係者の不安の軽減を図り、円滑な現場活動及び病院選定に繋げる

ことで現場滞在時間を短縮し、市民サービスの向上を図ることを目的として令

和四年七月よりプレアライバルコールの運用を開始しました。

消防本部として運用を開始する前に試験運用を富岡消防署甘楽分署で行いました。実施期間は令和三年九月一日から令和四年一月三十一日まで五か月間行い、

実施前の令和三年四月一日から令和三年八月三十一日までの五か月との現場滞在時間と傷病者接触から車内収容までの平均時間を比べました。実施前と実施後では現場滞在時間一分五十四秒短縮でき、傷病者接触から車内収容までが四十五秒短縮という結果となりました。

時間短縮の結果だけでなく試験運用期間で得られた検証結果を基に、救急活動の質の向上と市民のニーズに応えられる

「救急部会の活動」

令和二年三月下旬から日本国内でも新型コロナウイルス感染症の陽性者が急増して以降、さまざまな行動制限がかけられてきました。

救急部会も例外ではなく、予定されていた事業のほとんどが中止となっておりましたが、ようやく令和四年度から活動再開の目処が立ち、群馬県消防学校専科教育第二十八期救急科学生に対する多数傷病者対応訓練から再スタートすることとなりました。

令和三年の改選で部会員が変わり初めての活動となり、不安な部分もありますが、部会員の熱意を学生に伝え、お互いの満足度が高い訓練にしたいと思っております。

ように有効なプレアライバルコールを運用していきたいと思えます。



～群馬県消防長会～

まだまだコロナが収束した訳ではなく、予断を許さない状況ではありますが、コロナを理由に何もせず救急隊員のレベルが低下して

しまうことは避けなければなりません。部会の活動が少しでも救急隊員の知識・技術の向上につながるよう、感染対策を万全にし、活動してまいります。

またまたコロナが収束した訳ではなく、予断を許さない状況ではありますが、コロナを理由に何もせず救急隊員のレベルが低下して



多数傷病者対応訓練

『前橋市女性防火クラブ連絡協議会について』

前橋市女性防火クラブ連絡協議会 会長 瀨藤 富美子

○協議会の概要

昭和五十年代当初、消防庁の通達により、住宅火災を減少させるためには家庭で火気を取り扱う機会の多い女性が防火意識を高め、地域と共同して防火に関する知識を学び、活動することが重要とことから、前橋市においてもこうした機運が高まり、昭和五十五年現在の組織の前身となる「前橋市婦人(女性)防火クラブ」として前橋市内の各地区単位で結成されたのが始まりです。その後、平成三年四月一日から各地区会長を会員とする母体組織として「前橋市婦人防火クラブ連絡協議会」が発足しました。また、平成十二年には社会情勢が「男女共同参画社会」の風潮になったことを考慮し、組織名を現在の「前橋市女性防火クラブ連絡協議会」に改称し、今日に至っています。そして、当協議会は現在、前橋市内十地区のクラブ、合計一九九三人(令和四年五月末現在)で構成されています。

○主な活動内容

当協議会の一年間の主な活動として、大きく二つの活動に区分されます。まず一つ目は、群馬県や前橋市、又は消防局の主催による防火・防災に関する研修会や各種イベントへの参加です。群馬県主催による「救急の日記念講演会」や「群馬県消防大会」への参加に加え、前橋市や当協議会全体の行事として「前橋市総合防災訓練」、「前橋市消防隊出初式」に参加しているほか、「炊き出し訓練」なども実施しています。特に前橋テルサホールにて毎年開催されている「女性と子ども」の防火のつどい」では、幼年消防クラブのかわいい園児さんと一緒に女性

防火クラブも参加、「防火踊り」などを披露し、幼年層からの防火思想の普及に一役買っています。昨今のコロナ禍により今年も三年ぶりに開催され、出演した女性防火クラブが仕事や家事の合間を縫って一生懸命に練習した成果を発表し、大変好評を得ていました。そして、二つ目は各地区単位による活動です。各地区で防火教室や普通救命講習会を開催し、自分自身やクラブにおける有事に備えたスキルアップを図っているほか、地域の文化祭への支援など、地域行事にも積極的に参加し、住宅用火災警報器の設置に関する広報に尽力しています。

○おわりに

私達女性防火クラブ員は、「自分たちの家や地域は、自分たちで守る」という理念に基づき、現在も活動しています。まだしばらくの間は女性防火クラブの活動もコロナ禍前のようにはいかず、活動の制限を余儀なくされますが、前橋市女性防火クラブ連絡協議会として、また、群馬県内にある一女性防火クラブの一人として「今後もコロナと共存しながら活動する」という強い意志のもと、地域住民の皆さんのために火災予防思想のさらなる普及啓発に努められるよう、消防局の助言を得つつ、創意工夫をしながら引き続き火災予防活動を続けていきたいと思います。



『令和四年度関東ブロック女性防火クラブ連絡協議会幹部地域研修会を開催』

群馬県女性防火クラブ連絡協議会事務局

一般財団法人日本防火・防災協会、群馬県女性防火クラブ連絡協議会主催のもと、令和四年十一月七日(月)に高崎ウィントンホテルプラザにて、関東ブロック女性防火クラブ連絡協議会幹部地域研修会を開催いたしました。コロナウイルス感染症拡大と、台風被害により中止が続いていましたが三年振りに開催が実現いたしました。当日は関東ブロック各都県の女性防火クラブ員計三十五名が集まり、研修を行いました。

講演では日本防災士会群馬県支部から、赤羽潤子支部長をお招きし、「あなたの周りでできる防災・減災・災害時に必要な男女両方の視点」と題した御講演をいただきました。

赤羽支部長が実際に避難所運営に携わってきた経験から、コロナ禍における避難所の運営方法や感染症感染防止対策など、ウィズコロナに即した実践的なお話をいただきました。

避難所運営には女性避難者のためにも、女性の視点が運営側に求められ、女性防火クラブ員の協力が必要不可欠であるとのことでした。また、日頃から地域への声かけを行うことで、顔の見える関係を醸成し、発災後にはそういったつながりが安心感を生み出すということからも、まさに女性防火クラブの日頃の活動は、避難所生活における地域の心のよりどころになるのではないのでしょうか。理論と実体験をもとにした御講義をいただき、地域防災の最前線で活躍が期待され

る女性防火クラブ員の方々にとっても有意義な時間となりました。

各都県からの活動報告では、コロナ禍で活動が難しい中でも、感染対策に工夫をしながら活動している様子が伝わってきました。

非常食を活用した防災クッキングの紹介では、日頃から料理をされている女性防火クラブ員ならではの活動であり、災害時もおいしく非常食を食べられると思うと、心身ともに疲弊する避難所生活にも、笑顔が生まれるのではないかと思いました。

令和四年度は徐々に活動が再開され、防火の芽を絶やさぬように、地道に努力されているようでした。

本研修会の開催が三年振りということもあり、会場は会員同士の、再会できた喜びで満ちあふれていました。今後もこういった意見交換の場を大切に、関東ブロック女性防火クラブ相互の発展、地域間の連携強化につなげていきたいと思います。



講演の様子



集合写真

学園祭での消防団員募集活動

令和四年十月十五日「前橋工科大学」十月二十九日「高崎経済大学」で開催された学園祭で「消防団員募集PRブース」を出展しました！

PRブースでは消防団員募集リーフレットの配布やパネルを使った説明をするにとともに、消防団のイメージに関するアンケート調査を実施しました。

当日は消防本部の職員の方々や学生消防団員と協働してPRブースを運営しました。同世代である学生消防団員から来場した学生に直接呼びかけを行い、消防団の存在を広く周知しました。

現在、消防団員の高齢化が進んでおり、次世代の地域防災の担い手として学生の入団に期待が寄せられています。

学生に消防団活動を知ってもらい、消防団を身近に感じてもらう本取組を通じて、在学中だけでなく、社会人となってからの入団を促すことが期待できます。また、アンケートから約六割の方は「消防団という名前は知っているが、活動内容を詳しく知らない」という結果でした。このようなことから、消防団の活動を広く周知するとともに、減少する消防団員に少しでも歯止めをかけるため、今後もしばしば引き続き学園祭でのPR活動を実施していきたいと考えております。



「ぐんま消防団応援の店」登録店舗を募集しています

県では、地域のために活動している消防団員を地域をあげて応援することにより、消防団員の増加・地域防災力の充実強化を図るため、消防団員に優遇サービスを提供していただく店舗「ぐんま消防団応援の店」を募集しています。

「ぐんま消防団応援の店」とは、消防団員が団員証を提示すると、優遇サービスを受けられる店舗です。令和四年十一月末日現在の登録数は二百八十二となっております。登録店舗やサービス内容は、県のホームページをご覧ください。

サービス内容は様々です。たとえばライス大盛り無料、店内ポイント二倍など、各店舗で任意に設定いただいています。登録は、無料です。「ぐんま消防団応援の店」として登録いただいた店舗には、登録表示証やポスターを交付いたします。

登録店舗は随時募集していますので、ぜひ登録にご協力をお願いいたします。事業内容や登録方法について詳しくは、県ホームページをご覧ください。お問い合わせ先

県庁消防保安課
 TEL 〇二七(二五六)二二四二
 FAX 〇二七(二二二)〇一五八



消防団PR動画を公開しています

県では懸命に活動している団員の活躍を広く周知するため、消防団の活動や魅力を紹介する消防団PR動画をシリーズで作成しています。県公式ホームページに公開中の動画を掲載していますので、是非ご覧ください。



令和四年度表彰



県消防協会定例表彰

「表彰者総数 三三三三名 七団体」

☆功労章 一五〇名(一五名)

☆永年勤続功労章 三九九名(四三名)

☆精績章 四四三名

☆精勤章

五年勤続 五二七名

一〇年勤続 四五六名

一五年勤続 四〇〇名

二〇年勤続 三〇八名(三三名)

二五年勤続 二〇一名(三六名)

三〇年勤続 九八名(三七名)

三五年勤続 四四名(一二名)

四〇年勤続 二〇名(一三名)

四五年勤続 三名

五〇年勤続 一名

☆永年勤続退職者表彰

三二六名(八〇名)

☆三世代伝承等優良消防団員顕彰 五名

☆無火災表彰

七団体

高崎市消防団第一二八分団

桐生市消防団桐生方面

桐生市消防団桐生方面

桐生市消防団桐生方面

玉村町消防団第一分団

上野村消防団第四分団

上野村消防団第五分団

草津町消防団第五分団

（ ）内は消防職員数で内数

二年
四年
二〇年
六〇年
八年

群馬県殉職消防職団員慰霊祭を挙行



令和四年十月二十八日(金)群馬県消防学校の慰霊碑前において、群馬県殉職消防職団員慰霊祭が新型コロナウイルスの感染拡大防止のため規模を縮小し、ご遺族・消防協会役員・消防関係者など六十名のご参加を頂き厳粛に執り行われました。

群馬県消防協会会長である山本知事は、「この慰霊碑に祭られた方々は、いずれも、消防職団員として職務を遂行する中、身を挺して危険に立ち向かわれ、尊くもその職



に殉ぜられた方々です。我々は、殉職された方々の強い正義感と深い郷土愛に崇高な消防精神を規範とし、これまで以上に、災害に強く、安全で安心して暮らせる地域づくりに取り組んでまいりますことを、ここにお誓い申し上げます。」と式辞を述べ、その後、参列者の皆様による献花が行われ、殉職者の御霊に対して敬意を表すとともに、安全・安心への誓いを新たにいたしました。



消防団員募集



2022年度全国統一防火標語

「お出かけは マスク戸締まり 火の用心」

県内の消防の現況 (令和4年10月1日現在)

消防団員数	11,067人	(前年比 103人減)
男性	10,874人	(前年比 124人減)
女性	193人	(前年比 21人増)
消防職員数	2,556人	(前年比 9人減)

発行所 公益財団法人 群馬県消防協会
 前橋市大手町一丁目1番1号
 群馬県総務部消防保安課内
 TEL 027-220-1338
 URL <http://www.gunma-syoubou.jp/>

編集発行人 公益財団法人 群馬県消防協会
 常任理事 板垣 哲夫

印刷所 朝日印刷工業株式会社